

焼却灰処理技術 提供

佐久の業者 東北など自治体に

小諸市御影新田で廃棄物最終処分場を運営し、放射性物質を含む廃棄物やし尿の焼却灰を受け入れているフジコーポレーション（佐久市）は3日、東北や関東地方の自治体などに同社の処理技術が無償で提供すると発表した。灰の飛散や雨水の浸透、放射性物質の溶出を防ぐ同社の技術を、東日本大震災の復興に役立てる狙いという。

同社は国よりも厳しい自社基準を設けた上で焼却灰を受け入れ。セメントなどを混ぜ、圧力をかけて成型した焼却灰の上から、新しいモルタルなどでさらに固め遮蔽している。

環境省が、1キロ当たり8千ギンを超え同10万ギン以下の焼却灰について「セメントで固めた上で水との接触も防ぐ対策を取る」などの方針を示

していることから、技術提供を決めた。専門機関や県による9月の調査では、処分場や周辺の放射線量が年間0・



4〜0・5ミリシーベルト程度、一般人の限度である同1ミリシーベルトを下回った。処分場内から集めた水も放射能が不検出だった。

同社は今月12日、環境対策の支援などに取り組む財団法人日本環境衛生センター（川崎市）を訪問してこの技術を説明。同センターを通じて自治体や民間事業者に工法や検査結果を提供する考えという。

焼却灰処理の技術提供について説明するフジコーポレーションの役員ら

た一角をアワビの貯蔵プールにする

また田老町漁協は、増殖場付近の

構想もあり、魚協の関係者らはがれ

防波堤が壊れた部分にアワビを貯蔵

是がしきりし普直易十画

荷してきた長野県内産ノクサ... イや愛知県産ミツバなどに検... ンターでも異常はなかった... ている... の生産分を販売する。